

佐渡市教育長賞

私たちが納める「税金」でできること

佐渡市立松ヶ崎中学校 3年 中平 真樹

皆さんは、常日頃から私たちが支払っている税金が、どのようにして私たちの暮らしにいい影響をもたらしているのか、知っていますか。意識せずになんとなく税金を納めていると、どうしても税金に対してマイナスの印象が強くなると思います。

税金は、私たちのような学生にとって、本当になくってはならない存在なのです。学校で快適に過ごす、というのはもちろんのこと、「学校に行けている」というのは、税金のおかげなのです。今現在、中学校までの義務教育の範囲では、教科書などの学校生活に必須とされているものは、そのほとんどが、税金の支援を受けています。中学生一人に対して、合計でおよそ百万円の費用が、税金によって賄われています。当たり前を送っている日常生活も、税金によって、数えきれないほどの支援を受けているのです。

こう聞くと、税金は、私たち国民にとってこれ以上ない、完璧な仕組みのように思えます。しかし、私はまだ問題視するべき点があると考えます。それは、少子高齢化と、一部地域で起こっている過疎化です。国が行った調査によると、2000年ほどの時には、一人分の社会保障の金額を負担する人数は、3.6人ほどでした。しかし、今から約25年後の2050年には、負担する人数が、1.3人にまで減少してしまうと考えられています。私は、もっと過疎化や、少子化対策のために、税金を使うべきだと考えます。各地域などで行っている、地域おこしを始め、イベントやお祭りなど、人を集める手段となるものが、身の回りにはたくさんあります。しかし最近では、担い手不足などにより、規模を縮小したり、中止せざるを得なくなってしまうたりしています。この問題点を、税金を用いて解決することができれば、少子高齢化対策になるだけでなく、働き手の負担を和らげることにもつながっていくと私は考えます。税金を使って、少子高齢化を解決することができれば、生産年齢人口の増加につながり、より税金をいろいろなところに活用できるようになると思います。

もちろんすぐに行うことは難しいし、また別の課題が見つかるかもしれません。しかし、こうして私たち国民が声を上げることによって、私たちにとって理想の税金の使い方ができるようになると思います。